

ミュージアム・コンサート

美術と音楽～木管五重奏

曲目解説

ストラヴィンスキー：バレエ音楽《プルチネルラ》より序曲

バレエ・リュスの主宰者ディアギレフは、ペルゴレージの作品を用いてバレエ音楽を作曲するよう、ストラヴィンスキーに依頼した。そして完成したのが、一幕のバレエ音楽《プルチネルラ》。ストラヴィンスキーのいわゆる新古典主義時代の作品で、1920年の初演はアンセルメの指揮、ピカソの舞台・衣装デザイン、レオニード・マシーンの振付により行なわれた。その「序曲」は、古風な主題が賑々しく奏され、華やいだ雰囲気には溢れている。

ビゼー (B.ホルコム編)：カルメン幻想曲

1875年に初演された歌劇《カルメン》は、ビゼーの最高傑作であり、古今東西のオペラのなかでも屈指の名作。しかし、ビゼーは初演のわずか3カ月後に37歳という若さで亡くなった。したがって今日、《カルメン組曲》あるいは《カルメン幻想曲》として演奏されているのは、後世の音楽家による劇中の名場面や定番曲から抜粋されたものである。本曲はアメリカの作曲家ビル・ホルコムによる木管五重奏版で、歌劇《カルメン》の魅惑的な旋律のオンパレードとなっている。

ドビュッシー (H.ビュッセル編)：小組曲

原曲は4手ピアノのための連弾作品だが、ドビュッシーの友人でもあった作曲家アンリ・ビュッセルが管弦楽用に編曲して有名になった。第1曲「小舟にて」は、ゆったりと小舟に揺られる心地よさを醸し出す。第2曲「行列」は、3度で平行に動く主部と、対照的なリズムで現れる中間部が美しい。第3曲「メヌエット」では、序奏に続いて古風で典雅な旋律が奏される。第4曲「バレエ」は、弾むようなバレエの曲調。中間部は優美なワルツとなる。

タファネル：木管五重奏曲

フランスのフルート奏者ポール・タファネルは、パリ音楽院フルート科の教授としてレイ・フルーリーやゴーパールなどの名フルート奏者を育てた。彼が著した教本は、フルート学習者必携書となっており、フルートのフランス楽派の創始者とも言われる。そのタファネルが作曲家として新たな一步を踏み出した作品がこの木管五重奏曲で、1876年、作曲家協会の作曲コンクールで金メダルを獲得した。

3楽章からなり、第1楽章アレグロ・コン・モートは、それぞれの楽器の特色を生かした緻密な構成が聴きどころ。第2楽章アンダンテは、穏やかな旋律が優雅に歌う。第3楽章ヴィヴァーチェは、各楽器が複雑に絡み合う6/8拍子の活発なフィナーレで、最後は可愛らしく曲を閉じる。